

もくじ

本書の使い方	……P. 3
第1問 「水の変化と気象現象」	……P. 4
第2問 「格差社会の中で育つ現代の子どもたち」	……P. 9
第3問 「将来の職業と労働形態」	……P.14
第4問 「自動運転車の普及を急いではならない」	……P.19
第5問 「確証バイアス」	……P.25
第6問 「ペットのセラピー効果」	……P.30
第7問 「気候変動が人体にもたらす影響」	……P.35
第8問 「歳をとるにつれて年月の経過を早く感じる理由」	……P.40
第9問 「性差と平均寿命の関係」	……P.45
第10問 「進化においては個体の利益が集団の利益より優先」	……P.50
第11問 「ディズニーランドの先見性」	……P.55
第12問 「言語が変化するパターン」	……P.60
第13問 「アクション・バイアス」	……P.66
第14問 「自制心の鍛錬は可能だ」	……P.71
第15問 「18世紀ヨーロッパにおけるジャガイモの普及」	……P.76
第16問 「長期宇宙飛行任務には外向的な性格は不向き」	……P.81
第17問 「睡眠の重要性」	……P.86
第18問 「健全な高齢化を目指して」	……P.91
第19問 「bystander effect (傍観者効果)」	……P.96
第20問 「英国における人間と犬の関係の歴史」	……P.101

はじめに

昨今の大学入試改革の影響もあり、【英語】という科目において「長文読解」の比重がより一層高くなっているのが今の大学入試の現状です。本書はそんな大学入試に挑む受験生の皆さんの力になるべく、特に以下4点に重点を置いて作成しました。

① 厳選された最新の良問を通じて、読解力の向上を実現する

本書に掲載されているすべての問題は、予備校講師として数多くの授業と模試作成に携わった経験をもとに、「最新の入試問題から厳選した良問」です。質の高い問題を教材に用いることで、「正しく内容を理解する力(=読解力)」を効率的かつ確実に鍛えることができます。

② 今まさに必要な語彙をフォローし、強化できる

解説編の【設問別解説】や【語句】、巻末の【語句一覧】などを通じて、今のタイミングで、「どの単語・語句を覚えておかなければならないのかを明確化し」、不足しているものがあればフォローできるようにしました。

加えて、〈Vocabulary Building Exercise〉や〈Summary〉といった設問解答とは別角度からの語彙強化のための問題を用意することで、見て覚えるだけでなく「問題に答える形」でも語彙知識をより確実にすることができるようになっていきます。

③ 幅広いテーマの文章を通じて、多様な知識を広く身につける

本書は〈社会問題〉・〈新技術と現代生活との関係〉・〈心理学〉・〈性科学〉・〈健康科学〉といった今の大学入試で頻出のテーマをできる限り多く取り扱っていますので、一通りの学習を終えれば「様々なテーマについての基礎知識を広く身につける」ことができ、読解力をより一層強固なものにできます。

④ 問題英文の音声を聴くことで、より深く【英語】を理解できる

本書の問題英文はすべて音声として聴くことができます(詳細は次ページ参照)。しっかりと読んだ英文の音声で聴くことで「語句のまとまりや文意の流れ」をとらえることができるようになります。リスニング力の強化に役立つことは言うまでもなく、英文読解力・英作文力の向上のために、音声を聴くことを習慣づけてください。

本書の問題英文は、パソコンやスマートフォンから下記の URL にアクセスして聴く（ストリーミング）ことができます。

<http://www.kawai-publishing.jp/onsei/01/index.html>

また、以下の QR コードからもアクセスできます。



※ファイル形式は MP4 形式になります。再生する際は、最新版の OS をご利用ください。

また、パソコンから下記 URL にアクセスしていただくことで、音声データのダウンロードも可能です。

※ホームページより直接スマートフォンへのダウンロードはできません。一度パソコンにダウンロードしていただいた上で、スマートフォンへお取り込みください。

<http://www.kawai-publishing.jp/onsei/01/index.html>

※ファイルは ZIP 形式で圧縮されていますので、解凍ソフトが別途必要です。

※ファイルの形式は MP3 形式になります。再生するには、Windows Media Player や iTunes などの再生ソフトが必要です。

--- 音声データに関する注意 ---

掲載されている音声ファイルのデータは著作権法で保護されています。本データあるいはそれを加工したものを複製・譲渡・配信・販売することはできません。また、データを使用できるのは、本書の購入者がリスニングの学習を目的とする場合に限られます。

お客様のパソコンやネット環境により音声を再生できない場合、当社は責任を負いかねます。ご理解とご了承をいただきますよう、お願いいたします。

本書は問題英文の総語数が「500～600語程度」の英文をまとめた問題集です。本書以外にも「400～500語程度」を用意していますが、英文の長さを除いて難度には大きな差はありません。どちらも最高の問題をそろえています。徹底的に使いこなすことによって、読解力と語彙力の両方を確実に鍛えることができます。

皆さんの夢の実現に本書が大きな力となることを切に願っています。

本書の使い方

読解問題について

各問題ですべての設問を解き終えたら、まずは【解答】を見て答え合わせ・採点をしてください。記述問題については【配点と採点基準】を参照して、どの要素は含まれていて、どの要素が足りていないのか、と“**自分の解答を客観視**”してみてください。この客観視は入試本番で自身の解答を見返す際に必ず役立ちます。

【設問別解説】は冗長になりすぎないように、要点のみに絞っています。長く予備校講師として指導してきた経験に基づく解説なので、熟読しておくように。

また、“**1文1文の意味を確認する**”ことも重要です。本書の問題はすべて実際に出題された入試問題なので、皆さんが受験する入試本番と同等の英文です。このレベルの英文を正確に理解する経験を数多く積みましょう。英文の意味を理解できない箇所は、【全訳】や【語句】を参照してください。

《Vocabulary Building Exercise》について

左側の英文を見て答え合わせをした後は、まず【 】内の英語がどういう日本語訳になるのかを確認してください。【 】内は英英辞書をイメージした言い回しになっているので、皆さんが単語帳などで学んだ単語の“**ニュアンスまで含み込んだ意味**”を知ることができます。ニュアンスまで把握した後は、左側の英文を見て“**正解の単語が実際にどういう文脈で使われるのか**”を改めて確認してください。実際の英文を読む際には単語帳の訳語をあてはめるだけでなく、文脈に応じた理解が必要になります。たんに単語帳の訳を覚えるだけでなく、単語の実際の使われ方に慣れておくことが重要なのです。

各例文の日本語訳は付属の“**赤シートで隠して和訳の練習**”をすることができるようになっていますので、語彙力強化に役立ててください。

〈Summary〉について

答え合わせをした後は、要約文全体と【〈Summary〉の訳】を見て、“**どう要約されているのか**”を確認してみてください。要約文とは文章全体の内容を過不足なく簡潔にまとめ直したものです。自分の内容理解と比較することで、自分は正確に読解できていたか、内容的に過不足していなかったかなどを確かめることができます。

巻末の【語句一覧】について

本書掲載の問題英文に出てくる単語や語句は、この機会に確実に身につけておくべき重要なものばかりです。そのため、付属の“**赤シートで意味を隠すことができる**”ようにしました。そのため一通り学習を終えた後には、“**実践的な単語帳**”として本書を使うこともできます。

単語・語句は各回かつパラグラフ順に並べており、各問題英文の内容やテーマに即した訳をそのまま掲載しています。改めて見た時になぜそういう訳になるのかと疑問に思った場合には、該当回の解説を参照してください。

本書内の各種記号について（解説編）

- ・（ ）は省略可能な語句を、[]はその前後で言い換えが可能であることを表す。
- ・Sは主語、Oは目的語、Cは補語を指し、AやBは名詞を指します。
- ・doは動詞の原形、to doは不定詞、doingは動名詞あるいは現在分詞、doneは過去分詞、one'sは所有格、A'sは主語と異なる所有格、oneselfは所有代名詞、をそれぞれ表している。なお、実際には文脈に応じた単語が入る。

〈 Vocabulary Building Exercise 〉

- | | |
|---|---|
| <p>1. It's impossible to invent a perpetual motion machine.
 [create or design something that has not existed before]</p> <p>2. It's impossible to predict the weather with absolute accuracy.
 [say that something will happen in the future]</p> <p>3. We need to identify data errors and correct them.
 [find or discover somebody or something]</p> <p>4. This event will have a great impact on the political situation.
 [the powerful effect that something has on somebody or something]</p> <p>5. The job requires a technical qualification.
 [an exam that you have passed; a course of study that you have successfully completed]</p> <p>6. Credit cards eliminate the need to carry a lot of cash.
 [remove or get rid of something]</p> | <p>1. 「永久運動機関を発明することは不可能である」
 [今までに存在しなかったものを作り出す、あるいは設計する]</p> <p>2. 「完璧な正確さで天気を予測することは不可能である」
 [将来に何かが起こると述べる]</p> <p>3. 「私たちは、データ中のエラーを特定して修正する必要がある」
 [誰か、あるいは何かを気づいたり発見したりする]</p> <p>4. 「この出来事は、政治情勢に大きな影響を与えるだろう」
 [あることが誰か、あるいは何かにもたらす強い影響]</p> <p>5. 「その仕事には、技術的な資格が必要である」
 [合格した試験／好成绩で完了した学習コース]</p> <p>6. 「クレジットカードは、大量の現金を持ち運ぶ必要をなくしてくれる」
 [何かを取り除く、あるいは排除する]</p> |
|---|---|

10. The computer generates a random **sequence** of numbers.
[a set of events, actions, numbers, etc. which has a particular order]
10. 「そのコンピューターは、ランダムな数字の配列を作り出す」
【特定の順番を持つ一連の出来事、行為、番号など】

〈 Summary 〉

Human beings have a strong tendency to filter out any information that **contradicts** our existing views. This is called the *confirmation bias*. We prefer to **interpret** all new information so that it fits in with our **prior** conclusions. In the business world, executives celebrate any sign that a strategy is successful, while **dismissing** indications to the contrary. Charles Darwin was aware of this bias, so he actively looked for things that contradicted his theory and wrote them down immediately because he knew that he would forget them quickly otherwise. In a professor's experiment, one **shrewd** student tested his theory thoroughly before guessing the underlying rule. He tried to find fault with his theory, while most of the others merely tried to confirm theirs. (123 words)

【〈Summary〉の訳】

人間というものは、自分がすでに持っている考えと矛盾する情報を排除する傾向が強い。これは「確認バイアス」と呼ばれている。私たちは、あらゆる新しい情報を、自分がすでに下した結論に合うように解釈したがる。ビジネスの世界では、経営幹部は、ある戦略が成功しつつある兆候を歓迎し、その逆の兆候を無視する。チャールズ・ダーウィンはこの先入観のことを知っていたので、自分の理論と矛盾するものを積極的に探し、すぐにメモに書き留めた。彼は、そうしないとすぐに忘れてしまうことを知っていたからである。ある大学教授の実験では、1人の賢い学生が、隠された規則を推測する前に、自分の理論を徹底的に検証した。彼は自分の理論に誤りを見つけようとしたが、ほかのほとんどの学生は、単に自分の理論の正しさを確認しようとしただけだった。